

PICK UP!!

お 職員の推し本



(読んだふりしたけど)ぶっちゃけよく分かん、あの名作小説を面白く読む方法

三宅 香帆 / RADIKO

あまりにもざっくばらんなタイトルに、気になって手に取りました。ドストエフスキーから村上春樹、「源氏物語」から「三体」まで、新旧もジャンルもちゃんぽんに見える22作品を取り上げた、「小説の読み方」指南本。

「名作は名作たるゆえんがあって、面白いからこそ今に伝わっているのだ！」 ならば、楽しまないと！！でも、名作はやっぱり敷居が高くて、どこから読んだものか…。「つまみ食いでもいい、面白いところを見つけてみよう！」という言葉に励まされ、タイトルしか知らなかった作品群を、ちょっとだけ読み始めたところです。

わにおのわのじはどうかくの？

乾栄里子 ぶん 出口かずみ え / 福音館書店

自分の名前が書けるようになったさるのすけと、「おれの名前も書いてほしいなあ」とお願いするわにお。

「わ」「に」「お」の字はまだ知らないのて、二人は町へ探しに出かけます。楽しそうに文字を探して、見つけるとやったー！と喜ぶ二人がとてもかわいい！

大人になった今では当たり前読み書きができますが、そういえば文字はどうやって覚えたんだろう？最初はどう書くかわからなくてたくさん書いて練習したなあ…と懐かしい気持ちになりました。

二人のように、自分だけの『あいうえお表』を作るのも楽しいかもしれません♪



途上の王国 一号線を北上せよモロッコ天涯編

沢木 耕太郎 / スイッチ・パブリッシング

著者が26歳の時、約1年かけて香港からロンドンまで旅をしたベストセラー紀行小説「深夜特急」。その旅で残した心残りの心を回収するために、モロッコの旅に出た記録が今年の新刊本「途上の王国」です。

「深夜特急」は今から52年前の旅、そして「途上の王国」は29年前の旅の記録です。

深夜特急を読んだ頃を懐かしく思い出しながら読む「途上の王国」。著者の旅先での行動や考えが面白く、場所も時間も超えて旅をしているような錯覚を覚えます。スナップ写真もたくさん掲載されており、異国の空気が伝わってきますよ♪モロッコパンが食べてみたいです。

